

2015年12月8日

バスケットボール議員連盟(仮称)設立総会用資料

1. 公益財団法人日本バスケットボール協会 役員一覧

役職	氏名	年齢	備考
会長	かわぶち さぶろう 川淵 三郎	79	・公益財団法人日本サッカー協会最高顧問 ・公立大学法人首都大学東京 理事長 ・一般社団法人日本トップリーグ連携機構代表理事会長 ほか
副会長	おの きよこ 小野 清子	79	・元参議院議員 ・公益財団法人日本オリンピック委員会名誉委員 ・公益財団法人笹川スポーツ財団理事長 ほか
副会長	みつや ゆうこ 三屋 裕子	57	・公益財団法人日本体育協会 日本スポーツ少年団 副本部長 ・公益財団法人日本バレーボール協会評議員 ・株式会社サイファ代表取締役 ほか
専務理事 (事務総長)	おおかわ まさあき 大河 正明	57	・B.LEAGUE(Bリーグ)チェアマン ・公益財団法人日本サッカー協会理事 ・公益社団法人日本プロサッカーリーグ理事 ほか
理事	やまもと いちろう 山本 一郎	58	・JXホールディングス株式会社執行役員総務部長 ・一般社団法人日本経済団体連合会 オリンピック・パラリンピック等推進委員会企画部会長 ・スポーツ庁スポーツ審議会委員 ほか
理事	まの よしゆき 間野 義之	52	・早稲田 大学スポーツ科学学術院教授 ・公益財団法人日本体育協会指導者育成専門委員会委員 ・一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会 組織委員会参与 ほか
監事	さかいだ まさき 境田 正樹	52	・弁護士 ・国立大学法人東京大学理事 ・内閣官房東京オリンピック競技大会・パラリンピック 競技大会推進本部政策参与 ほか
監事	すなが いさお 須永 功	48	・税理士 ・独立行政法人日本スポーツ振興センター 助成事業評価ワーキンググループ委員 ・公益財団法人日本サッカー協会財務委員 ほか

※年齢は2015年12月8日現在

2015年12月8日

バスケットボール議員連盟(仮称)設立総会用資料

2. 2016年リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピック出場権について

①リオ オリンピック出場の仕組み (*1参照)

※用語の解説: FIBA=国際バスケットボール連盟

FIBA〇〇(FIBA ASIA など)=FIBA のゾーン毎の下部組織

リオ オリンピック(出場チーム数:12)



(脚注) *1 本図はリオオリンピック出場権に関するものです、2020年東京オリンピックについては、男子の予選方式について方式が変更になることが決定しています。
パラリンピックの予選方式は、また別途異なります。

*2: ホスト国枠は自動的に付与されるものではなく、開催前年のFIBA センtral ボードにて審議され、付与の可否が決定されます。したがって、開催国であっても出場できない可能性があります。東京オリンピックにおける日本の出場権取得は、現状では未定事項です。

2015年12月8日

バスケットボール議員連盟(仮称)設立総会用資料

②日本代表チームの現状(男女／車椅子男女)

●男子日本代表チーム

FIBA アジア選手権(兼リオオリンピック予選@中国)で4位。

→現状でリオオリンピック出場権は未獲得。FIBA 世界最終予選への出場権を獲得。

【男子世界最終予選情報】

- ・開催時期: 2016年7月(開催国・組分け決定時期: 2016年1月)
- ・予選形式: 各大陸予選の上位チームに振り分けられる枠(15チーム*下記参照)を各5チームの3グループに分け、各グループの開催国代表を加えた6チームずつで最終予選を実施。各グループの1位がリオオリンピックの出場権を獲得する。
- ・最終予選出場国: カナダ・メキシコ・プエルトリコ(以上 FIBA AMERICA)
(開催国枠を除く) フランス・スロバキア・ドイツ・イタリア・チェコ(以上 FIBA EUROPE)
フィリピン・イラン・日本(以上 FIBA ASIA)
ニュージーランド(FIBA OCEANIA)
アンゴラ・チュニジア・セネガル(以上 FIBA AFRICA) 以上15チーム

●女子日本代表チーム

FIBA アジア女子選手権(兼オリンピック予選@中国)で優勝。

→リオオリンピック出場権を獲得済み(3大会ぶり4回目の出場)。

●車椅子バスケットボール男子日本代表

国際車椅子連盟によるアジアオセアニアチャンピオンシップ(兼リオパラリンピック予選@千葉県)にて3位。→11大会連続となるリオパラリンピック出場権を獲得済み(通算12回目の出場)。

●車椅子バスケットボール女子日本代表

国際車椅子連盟によるアジアオセアニアチャンピオンシップ(兼リオパラリンピック予選@千葉県)で惜敗。→リオパラリンピック出場を逃した。

2015年12月8日

バスケットボール議員連盟(仮称)設立総会用資料

3. 「B.LEAGUE」設立につながる男子トップリークのこれまでの概略

【背景】

日本の男子トップリークは、日本バスケットボール協会(JBA)傘下として、企業チームを中心とした日本リーグ(のちに、JBL=バスケットボール日本リーグ機構→現・NBL=ナショナル・バスケットボールリーグと名称変更)として発展してきた。

【B.LEAGUE 設立の経緯】

2005年	リーグのプロ化に積極的だった2チームがJBAを脱退し、新規4チームを加えた6チームでJBA傘下外(管轄外)の独立プロリーグ(bjリーグ)を設立し、開幕。 男子トップリークはJBA傘下のJBL(のちのNBL)とbjリーグの2つが並立する状態へ突入。
2009年	FIBA(国際バスケットボール連盟)よりJBAに対し、男子トップリークの並立状態、またそれを統括団体としてコントロールできないJBAのガバナンス能力(統治能力)の欠如について、改善を要求される。
2013年	男子トップリーク並立を含む日本の課題(おもに、リーグ問題、JBAのガバナンス問題、日本代表の強化の停滞)について長年にわたり改善が見られないとの再指摘を受け、制裁の可能性について通達を受ける。
2014年	最終期限とされた10月末までにJBAは有効な改善策をFIBAに対して提示できず、11月25日付にて「国際資格停止」処分を科される。 その結果、リオデジャネイロオリンピック予選を含む、国際試合への参加が危ぶまれる状態となる。
2015年 1月	FIBAが主導するタスクフォースチームが結成され、タスクフォースチェアマンに川淵三郎が就任。諸課題に関する提言がまとめられ、その一環として、男子のリーグ並立問題について、新リーグ立ち上げが盛り込まれた。
同 4月	新リーグの運営母体(受け皿)として「一般社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ」が設立され、既存の2リーグに所属していた各クラブが、それぞれのリーグに対して退会届を提出することで新リーグへの参加を表明(事実上の2リーグ併存状態の解消)。
同 5月	JBA改革の一環としてタスクフォースの川淵三郎チェアマンがJBA会長に就任。新役員体制のもと、JBAのガバナンス能力回復に動き出す。
同 8月	FIBAによる制裁が正式に解除。男女日本代表チームのリオデジャネイロオリンピック予選出場が実現。
同 9月 ～ 現在	新リーグの名称を「B.LEAGUE」と発表。 開幕が2016年秋のため、2015-16年シーズンについては、既存2リーグのまま実施されている。

以上

2015年12月8日

バスケットボール議連(仮称)設立総会用資料

日本代表関係者 ご紹介

【男子日本代表】



●ヘッドコーチ 長谷川 健志 (はせがわ・けんじ)

1960年生まれ、55歳。

青山学院大学監督として長く学生指導に携わり、ユニバーシアード日本代表ヘッドコーチなどを歴任。

昨年4月、男子日本代表専任ヘッドコーチに就任。9月に開催された第17回アジア競技大会で20年ぶりの銅メダル獲得を果たし、今年9～10月にかけて開催された第28回FIBA ASIA選手権大会(兼リオデジャネイロオリンピック アジア地区予選)では、18年ぶりのベスト4進出にチームを導いた。



●キャプテン 小野 龍猛 (おの・りゅうも)

1988年生まれ、27歳。東京都出身。

中央大学卒業。千葉ジェッツ(NBL)所属。198cm・100kg。

ポジションはパワーフォワード。

国学院久我山高校時代に頭角を現し、大学2年次にユニバーシアード日本代表に選出。

2014年に日本代表に初選出され、アジア競技大会に出場。第28回FIBA ASIA選手権大会(兼リオデジャネイロオリンピック アジア地区予選)では、キャプテンとしてチームをけん引した。



●田臥 勇太 (たぶせ・ゆうた)

1980年生まれ、35歳。神奈川県出身。

ブリガム・ヤング大学ハワイ校出身。リンク栃木ブレックス(NBL)所属。173cm・75kg。ポジションはポイントガード。

日本人初のNBAプレーヤー(フェニックス・サンズ)でもあり、男子バスケットボール界きってのスーパースター。

今年、自身初のオリンピック予選に出場し、ベテランとして、また司令塔としてその力を発揮。18年ぶりのアジアベスト4進出に貢献した。

2015年12月8日

バスケットボール議連(仮称)設立総会用資料

【女子日本代表】



●ヘッドコーチ 内海 知秀 (うつみ・ひでとし)

1958年生まれ、57歳。青森県出身。
現役時代は日本鉱業でプレイし、日本代表として活躍。引退後は札幌大学監督 JOMO(現 JX-ENEOS)のヘッドコーチを歴任。2003~04年、2006年~08年に日本代表のヘッドコーチを務め、アテネオリンピック出場。2013年、専任ヘッドコーチに就任すると、同年のアジア選手権では43年ぶりにチームをアジア王座に導いた。リオオリンピック予選を兼ねた先のアジア選手権で大会連覇を達成、来夏のオリンピック出場権を獲得した。



●キャプテン 吉田 亜沙美 (よしだ・あさみ)

1987年生まれ、28歳。東京都出身。
東京成徳大学高校卒業。JX-ENEOS サンフラワーズ所属。165cm。ポジションはポイントガード。
高校3年次に日本代表に初選出。2009年のアジア選手権では、小柄ながらリバウンドランキング1位に輝き、また10年の世界選手権ではアシスト王を獲得。2014年、ケガにより戦線を離脱したが、今年代表に復帰し、キャプテンとしてチームを統率。リオデジャネイロオリンピック出場権獲得の立役者となった。



●渡嘉敷 来夢 (とかしき・らむ)

1991年生まれ、24歳。埼玉県出身。
桜花学園高校卒業。JX-ENEOS サンフラワーズ所属。193cm。ポジションはセンターフォワード。
その身長の高さと類稀な運動能力で、日本が世界に誇るエースへと成長。今年はアメリカの女子プロバスケットボールリーグ(WNBA/シアトル・ストーム)に参戦し、さらにスケールアップ。2013年、そしてリオオリンピック予選となった2015年のアジア選手権では2大会連続で大会ベスト5とともに、MVPを獲得。

2015年12月8日

バスケットボール議連(仮称)設立総会用資料

【車椅子男子日本代表】



●アシスタントコーチ 京谷 和幸 (きょうや・かずゆき)

1971年生まれ、44歳。北海道出身。

小学生時代よりサッカーに取り組み、高校時代にはJリーグ・ジェフ市原とプロ契約を結んだが、93年のJリーグ開幕後、交通事故により車椅子生活となる。その後出合った車椅子バスケットボールで新たな夢を見つけ、2000年シドニーパラリンピックを皮切りに、4大会連続でパラリンピック出場。現在は指導者生活を送るほか、車椅子バスケットの普及に取り組むなど、スポーツ界に貢献する。



●永田 裕幸 (ながた・ひろゆき)

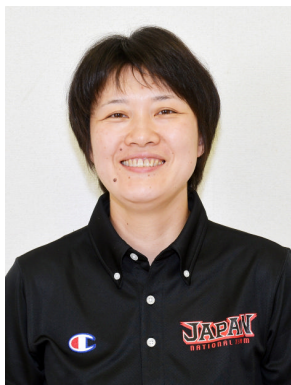
1984年生まれ、31歳。鹿児島県出身。

埼玉ライオンズ所属。ポジションはガード。

アグレッシブなディフェンスが特長のプレイヤー。そのディフェンス力でボールを奪い、速攻で得点につなげることで、チームを引っ張る。

車椅子バスケットの特徴となる障害重度による持ち点(クラス)は腹筋・背筋がある程度機能し前傾姿勢がとれる、やや重い「2.0」。

【車椅子女子日本代表】



●ヘッドコーチ 橘 香織 (たちばな・かおり)

1972年生まれ、43歳。兵庫県出身。

茨城県立医療大学理学療法学科准教授。宮城MAXで車椅子バスケットと関わり、2008年の北京パラリンピックでは車椅子女子日本代表のマネージャーとして活動。東北地方の女子選手で結成した「SCRATCH」で2011年、日本一にチームを導く。

U-25 車椅子女子日本代表ヘッドコーチを経て、2013年より車椅子女子日本代表ヘッドコーチに。



●吉田 絵里架 (よしだ・えりか)

1977年生まれ、38歳。兵庫県出身。

カクテル所属。ポジションはスモールフォワード。

戦術眼に長け、冷静な判断力と高いスキルでチームに貢献する。障害重度の持ち点(クラス)は「1.0」で最も重度のクラスながら、積極的なシュートも持ち味。ベテランとして若手とのコミュニケーションを図りながら、チームをまとめている。2008年～12年までは代表のキャプテンを務めた。